

東日本大震災の 工学院大学における対応

2014年7月3日(木)

工学院大学総務・人事部総務課兼秘書課
中野 裕太郎

工学院の概要

- 日本最初の私立工科系教育機関(明治20年工手学校)
 - 学園創立者: 渡邊洪基(帝国大学初代総長)
 - 工学部(1部、2部)・情報学部・グローバルエンジニアリング学部(平成18年～)・建築学部(平成23年～)・先進工学部(設置構想中)、大学院
- ※学生数: 約6,500名、教職員数: 約440名



約40km

2

新宿区の特殊性

- 人口
夜間人口326,309人 昼間人口750,120人 比率230%
- 一日の新宿駅利用者
約326万人(ギネス世界記録認定)



遠方からきている人が多く震災時に帰宅困難者になる可能性が非常に高い。



3

新宿区の特殊性



規制線が張られた改札



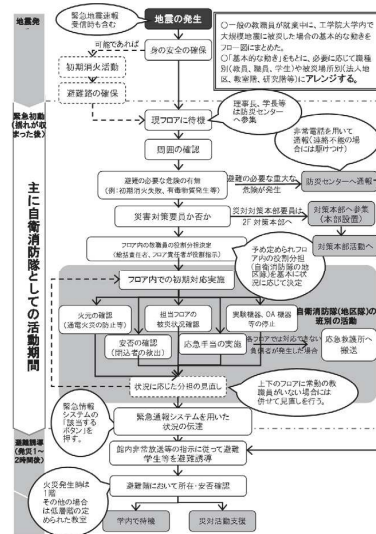
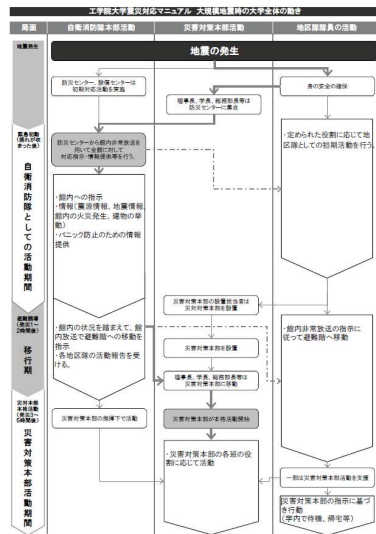
公衆電話にできた長い列



新宿西口 滞留者であふれる歩道

4

東日本大震災時の大学の主な対応



5

東日本大震災時の大学の主な対応

◆ 防災センターを拠点とした初動対応 (地震発生直後～)

- 本部員参集(防火防災管理者、本部長ほか)
- 学科単位での状況確認の指示、被害概要の把握(火災、EV内閉じ込め、物的・人的被害など)
- 地震情報等の提供、パニック防止



防災センターの様子

◆ 災害対策本部を拠点とした応急対応

- 災害対策本部の立ち上げ(2階JobStation前)
- 被害状況の調査(施設部)
- 周辺被害情報の収集、八王子校舎の情報収集
- 在館者(学生・教職員、来客者)の把握、名簿作成
- 学内被害状況等の提供(大学HP、20時頃から)
- 帰宅困難者対応(3月12日10時頃まで)



災害対策本部の様子



災害対策本部の様子

6

東日本大震災時の大学の帰宅困難者対応



帰宅困難者の受入(1階アトリウム)

名簿(3月11日)

学内学外	宿泊		名前	性別		備考
	する	しない		男	女	
1	○	○		○		
2	○	○		○		
3	○	○		○		
4	○	○		○		
5	○	○		○		
6	○	○		○		
7	○	○		○		
8	○	○		○		
9	○	○		○		
10	○	○		○		
11	○	○		○		
12	○	○		○		
13	○	○		○		
14	○	○		○		
15	○	○		○		
16	○	○		○		
17	○	○		○		
18	○	○		○		
19	○	○		○		
20	○	○		○		
21	○	○		○		
22	○	○		○		
23	○	○		○		
24	○	○		○		
25	○	○		○		

7

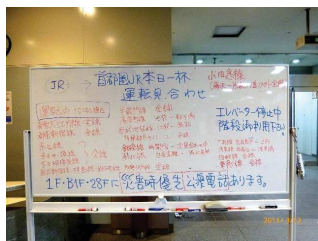
東日本大震災時の大学の帰宅困難者対応



帰宅困難者の様子(1階アトリウム)

8

東日本大震災時の大学の帰宅困難者対応



公共交通情報の提供



災害時優先電話の提供

◆ 学内対応(最終的に422名)

一斉帰宅の抑制、校舎内待機を指示、名簿作成、物資提供、など

◆ 学外対応(最終的に689名)

本部長の判断により1階・地下1階で学外者の受入を開始

- ・ 防寒対策: 暖房設備の稼働、マット・段ボール等の設置
- ・ セキュリティ対策: 入口の制限、受付設置、名簿作成
- ・ 災害時要援護者対策: 別室・専用フロア準備、看護師待機
- ・ 情報・物資提供: テレビ、ホワイトボード、災害時優先電話、支援物資、など

9

東日本大震災時の大学の帰宅困難者対応

分類	物資	数量(概数)
水・食料	水(500ml)	750本
	缶詰(スキヤキ、肉じゃがなど)	1,220個
	缶詰(パン)	240個
	アルファ米(1人用パック) (※お湯は2階給湯室で提供)	1,150個
防寒備品	災害救援用カーペット	40枚
	毛布	60枚
	保温シート	180枚
応急手当	救急セット	5個



支援物資の提供



10

東日本大震災の教訓 訓練のための訓練であったことを反省

- ◆ 学内の震災対応マニュアルや通信機器が十分に機能しなかった。
- ◆ 自衛消防隊による情報収集や安否確認を組織的に行うことができなかった。
- ◆ 災害対策本部では、本部活動に必要な備品が十分に準備できなかったことに加えて、本部員の参集や指示命令系統が混乱した。
- ◆ ライフラインや学内の給排水・空調設備が被害を受けなかったこともあり、帰宅困難者対応は可能であったが、ライフラインなどが使用できない場合の対応については改めて検討が必要である。(トイレトペーパーの不足)
- ◆ 帰宅困難者のための一時滞在施設の開設から受入、帰宅支援、解消までの一連の運営マニュアルの整備の必要性を実感した。また、一時滞在施設の法的な位置づけ、受入後の帰宅困難者がけがをした場合の補償や免責の範囲(誰が責任をとるのか?)といった問題の検討も必要である。
- ◆ 本学に新宿西口現地本部を設置し、地域事業者や新宿区等と連携して新宿駅周辺・広域の被害情報や帰宅困難者の受入状況等を集約・共有するようになっていたが、それぞれの自助対応に忙殺され、本部として機能できなかった。

11

東日本大震災後の取り組み

■ 減災対応システムの導入・開発

新宿・八王子校舎間(約40km)の長距離無線LAN(自営通信網)の整備、など

■ 学生の安全確保対策

各種防災マニュアルや防災資機材・備蓄品の整備、など

■ 学生の意識づけの取り組み

地震防災訓練の実施、災害時に役立つ資格取得、専門科目の開講、など

■ 大学・地域・自治体が連携した地域共助体制づくり

地域点検マップづくりや地域防災活動の支援、など

■ 事業再開に向けてのBPC作成

優先業務の洗い出し、学生の居住地マップ作成、など

■ 他大学と連携した連絡手段

TKK三大学連携プロジェクト、など

12

様々な減災対応システムの開発・導入



意識啓発のための取り組み



BCP構築に向けて

工学院大学の法人・大学各部署を
対象に、アンケート調査およびヒア
リング調査を実施

【調査部署数】

大学20、法人13、その他(生協等)3

- ◆ 東日本大震災時における震災対応業務調査(2011年度)
- ◆ 事業継続のための災害への備えなどの調査(2012年度)
- ◆ 通常業務の被災時優先度調査(2011・2012年度)

※八王子校舎での業務継続、業務継続
に必要なリソース(もの、ひと、かね)



被災時に継続が優先される業務の例

部署名	被災時も継続が優先される主な業務
総務部総務課	管理、危機管理、施設貸出、公印など
総務部人事課	教職員給料、健康相談室
総合企画部広報課	情報収集・発信など
財務部管財課	資産・物品管理、伝票管理
財務部総理課	出納、金繰・運用、予算決算など
施設設備課	建築設備保全、法的順守事項履など
施設部購買課	契約・注文、納品、支払など
学務部学務課	教職員人事
情報システム部	システム、ネットワークの導入・運用管理など
各学部学科事務室	学生窓口、ゼミ卒論配属・卒業判定他など
教務課	学籍
学生支援課	窓口・電話相談、学生の健康診断など
就職支援課	学生対応、学生支援講座など
入学広報部	一般、セサライト、センター、ＡＯ、編入等、大学院入試
研究推進課	研究費に関わる業務

季節によって影響を受ける業務の例(一部抜粋)

- ◆ 春期(4月～6月): 新入生への対応業務、履修登録、ゼミ配属
- ◆ 夏期(7月～9月): 前期定期試験、単位認定、推薦入試
- ◆ 秋期(10月～12月): 後期定期試験
- ◆ 冬期(1月～3月): 予算編成・執行、入学試験、卒業式、後期定期試験、単位認定

- ### ◆ 法人部署

物品発注・支払・給与等
業務、渉外業務、など

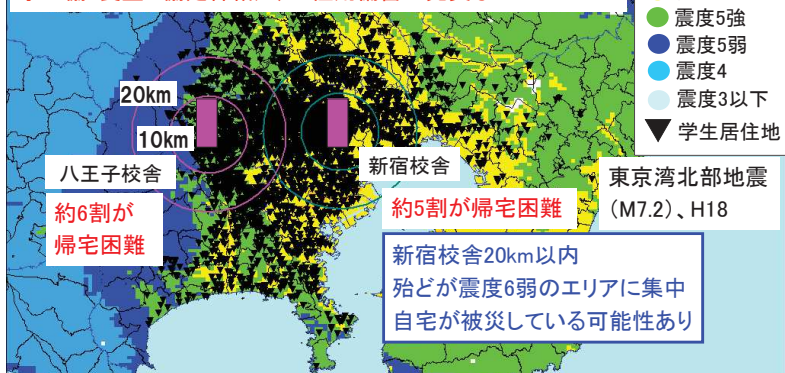
- ### ◆ 大学部署

成績等業務、入試・試験業務、など

帰宅困難者・自宅被災者の検討例(学生)

学部生・院生の居住地をアドレスマッチングにより把握、震度分布などと重ね合わせて帰宅困難・自宅被災者の検討

収容スペースや食料・水・トイレなどの備蓄の確保(食料は大学生協・食堂と協定締結)、女性用備蓄の充実など



17

TKK3大学連携プロジェクト

◆ 防災・減災・ボランティアを中心とした社会貢献教育の展開(TKK連携事業)

東北福祉大(T)・工学院大(K)・神戸学院大(K)が連携し、それぞれの大学の特色・強みを活かしつつ、文系と理系の融合による高度な社会貢献に関する研究・教育を行う→「社会貢献学会」を設立へ(2011年3月5日、工学院大学にて設立総会)

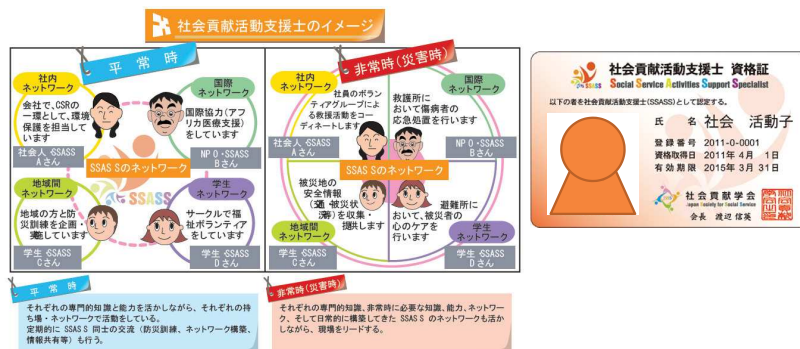


18

TKK3大学連携プロジェクト

社会貢献活動支援士(ソシエーター)の育成

社会貢献活動支援士(SSASS: Social Service Activities Support Specialist)とは、社会貢献、防災・減災、ボランティア、福祉、環境等の専門知識を身につけ、災害やボランティアの現場でリーダーシップを取り活動することができる人材であることを認定する制度

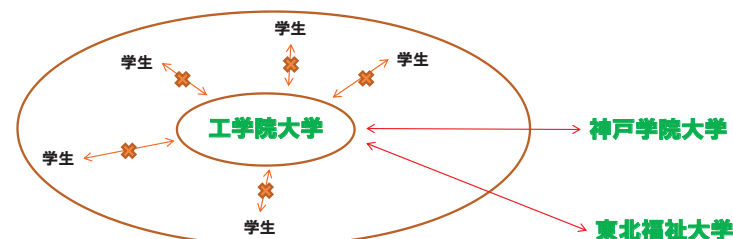


19

TKK3大学連携プロジェクト

輻輳に強い連絡体制

首都直下地震が起きた場合、都内での通信は困難になると想定される。そこで比較的被害が少ないであろう他県の大学と連携することで情報を集めやすくなる。



20